法と経済学

個人や企業の意思決定や行動のインセンティブを捉え、法の「意図せざる効果」を確かめよう！

経済学はアダムスミスの時代から人々の幸せを考える学問として発展してきました。スミスを踏まえつつ最近の経済学は人間の意思決定や行動のインセンティブを考える学問になっています。インセンティブとは、当事者がある行動する際の動機付けを意味します。法やルールも人々のインセンティブを考慮しつつ設定されることが望ましいということは言うまでもありません。現代経済学で広く使われている人間のインセンティブを意識して法の学問の中に取り入れて考えていくのが「法と経済学」という学問です。具体的に、自動車のシートベルト着用の義務化というルールを考えてみましょう。着用義務付けの意図は同乗者の負傷を減らすというものです。一般的な直感では、義務付けによって負傷が減少するものと考えられます。

しかし、このとき運転者はシートベルト着用によって安心してしまい、注意深い運転を怠る可能性があります。トータルで見ると、物理的着用による負傷の減少と安心感からくる無謀運転による負傷の増加のせめぎあいがあるはずです。着用義務化によって、もしかしたら、同乗者の負傷は増えていたかもしれません。また、着用の義務化は歩行者の安全性を損なう可能性もあります。

このようにすぐに見た目にはわからない現象の中味をしっかりと理解できれば、法やルールの制度設計をより適切にこしらえることができ、ひいてはそれが人々の幸せにつながることになるのです。オーソドックスな法学とは少し違った角度から法やルールの意味を読み解いてみませんか。